

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>生徒個々の「生きる力」「進路を切り開く力」の伸長を図る地域と密接に連携した教育活動により、将来社会に貢献できる能力と豊かな人間性を持つ人材を育成し、地域に信頼される高校をめざす。</p> <p>1 生徒が積極的に参加・活動する「わかる授業」を推進し、「確かな学力」を育成する。</p> <p>2 キャリア教育の充実に努めるとともに、自立支援コース並びに専門コース等において特色ある教育活動を展開し、自らの力で進路実現できる生徒を育成する。</p> <p>3 教育活動全体を通じて、規範意識、人権意識の向上を図るとともに、地域との交流・連携を深め、安全・安心な学校としての信頼感を高めていく。</p>
--

2 中期的目標

<p>1 確かな学力の育成と授業改善</p> <p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>ア アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒の授業参加と活動量を積極的に増加させ、学びを深める。</p> <p>イ 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。</p> <p>ウ 国際交流事業、英語検定等を活用し、国際理解教育を推進する。</p> <p>エ 「阿武野プロジェクト(あぶプロ)・学力充実推進チーム」を中心として、組織的な授業改善を行い、生徒の学力の充実に努める。</p> <p>※ 授業アンケートにおける興味関心、知識技能に係る生徒の満足度(平成29年度81%)を上昇させ、2020年度には87%以上にする。</p> <p>※ 平均家庭学習時間を毎年度10分増加させる。</p> <p>※ 外部学力調査の成績上昇者を毎年度10%向上させる。</p> <p>※ ICTを活用した授業(平成29年度年間3000時間)を増加させ、2020年度には4000時間以上を維持する。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p> <p>ア 学習環境整備、授業準備、授業規律の指導を徹底し、授業に集中できる環境を整える。</p> <p>2 進路意識の高揚とコース制の充実</p> <p>(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実に努め、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>ア 総合的な学習の時間(ライフ・プランニング=L P)、L H R(ロングホームルーム)において、系統的・継続的なキャリア教育の充実に努める。</p> <p>※ 進路決定率(平成29年度86%)を上昇させる。</p> <p>※ 学校紹介就職内定率は100%(平成29年度100%)を維持する。</p> <p>※ 難関、中堅私立大学合格者数を増加させ、2020年度には30名以上にする。</p> <p>(2) 「自立支援コース」「スポーツ専門コース」「福祉・保育専門コース」をはじめ、すべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p> <p>ア コース毎に、生徒の実態や保護者のニーズに応じた教育内容の充実に努め、進路実現に導く。</p> <p>イ コースの特色に応じて多様な教育活動を展開し、地域との交流・連携を深める。</p> <p>3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成</p> <p>(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>ア 規範意識の高揚、基本的生活習慣の確立を図るため、登校時の校門指導を強化し、一貫した生徒指導を行う。</p> <p>イ L P、L H Rにおいて、アサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。</p> <p>ウ インクルーシブ教育の理念に基づいた「ともに学び、ともに育つ」教育、並びに地域の学校、諸団体との交流・連携を推進し、社会貢献を体験することで、生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。</p> <p>エ 防災教育、交通安全教育を計画的に継続して行う。</p> <p>※ 遅刻について、前年度比5%の減少を図る。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成するとともに、自らを律し他人を思いやる心を育てる。</p> <p>ア 学校行事、生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>イ 部活動の活性化を図る。</p> <p>ウ 一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な支援の充実に努める。</p> <p>※ 部活動加入率(平成29年度51%)を上昇させ、2020年度には57%以上にする。</p> <p>4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上</p> <p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。</p> <p>ア 中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施し、地域の信頼感を高める。</p> <p>イ 学校教育活動全般について、適切な情報発信に努め、保護者、地域との信頼関係を高める。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【確かな学力の育成】</p> <p>①生徒の授業への意識…授業を受けようとする意欲や態度(73.4%)よりも、授業を受けた結果の満足度(55.3%)や理解度(60.6%)は下回っている。</p> <p>②教員と生徒の意識の比較…教員の授業への取り組みの高まり約8~9割に対して、生徒の満足度や理解度は6割程度に留まっている現状が伺える。ただ、過去5年の経年比較でいくと、教員の意欲は2割上がっている。</p> <p>③ICT活用に関する教員と生徒の意識…ICTの活用に関する教員と生徒の意識の比較では、教員88.1%、生徒88.7%と両者とも高く、過去4年間で定着してきたと思われる。iPadの導入は過去4年間で肯定的回答が最も高くなった要因となった可能性も考えられる。</p> <p>「確かな学力の育成」に関連して、自由記述において、「授業がわからない」や「授業中の私語が多い」などの意見も比較的多くみられた。来年度に向けて、さらなる学習指導、形態の工夫を継続するとともに、授業において、生徒の達成感や理解度が実感として感じられるような工夫が必要である。また、カリキュラムマネジメントを計画的におこなう本校生徒にとって魅力ある学校づくりに努めていきたい。</p> <p>【進路意識の高揚とコース制の充実】</p> <p>①進路学習の機会の提供…教員生徒ともに、本校において「進路について学ぶ機会がある」への肯定的回答は80%を超えており、概ね目標に達した</p>	<p>【第1回 5月29日】「平成30年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めてプロジェクターの授業を見て、どこから見ても見やすかった。生徒が見ているプリントと、投影されているものが全く同じなため、わかりやすかった。このプロジェクターがHR教室以外にも設置されてほしい。 P T Aがチーム阿武野として先生方の手助けをしていき、少しでも先生と生徒との関わりの時間を増やしたい。地元の中学校と交流し、阿武野高校の魅力を発信して欲しい。P T Aはその手伝いをしていきたい。 久しぶりに授業を見たが、プロジェクターの授業はわかりやすかった。先生がどなたも生徒の方を向いて授業をしていたのが印象的だった。日の当たる教室の温度が暑かった。 詰め込み式の授業から人間力を高める授業へと、授業のあり方がずいぶん変わってきた。12月に地域の清掃活動を行っているが、高校生が200名ほど参加しており、地域の皆さまも驚いていた。我々も生徒たちを見守っていきたい。 本校からも多くの生徒が進学している。今回お話を聞いてきて、家庭学習の時間など中学校が抱える課題と阿武野高校の課題がよく似ている。高槻市の子ども通塾率は高いが自学自習の時間が非常に少ない。自主性、自尊感情、自己肯定感を高めていかなければならないのも同じ課題だった。送り出した生徒に丁寧な接して頂いている印象。中学校時代と同じように授業が受けられており安心した。どの取り組みも続けていただきたい。

<p>と思われる。特にキャリア教育に関する教員の意識は、昨年比+15.6と、昨年度までと比較して、大きな変化がみられた。34期生のLPにおける進路別対策講座の工夫や36期生のすてきな大人インタビューにおけるポスターセッションなどの新しい取り組みが数字を押し上げた要因であると考えられる。</p> <p>②特色ある教育活動の展開…専門コースの満足度については、両コースとも8割以上の生徒が肯定的回答をおこなっており、これからも継続した教育活動の展開が必要であると思われる。</p> <p>以上のように、進路意識の高揚とコース制の充実に関して、学校教育自己診断の結果は概ね良好であり、新しい取り組みも含めて、これからも継続した教育活動の展開が必要であると思われる。</p> <p>【安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成】</p> <p>①安全で安心な学校作りに関連した項目の比較…本校において、人権教育に対する教員の意識は9割程度の水準を維持している。それに対して、生徒は、人権学習の機会については例年8割程度の肯定的回答があるが、相談の機会や、いじめへの対応に関しては6割程度に留まっており、潜在的に悩みを抱えた生徒が少なからず存在する可能性が考えられる。保護者も同様の傾向である。来年度は、スクールカウンセラーの配置に加え、スクールソーシャルワーカー（SSW）を非常勤で配置する予定であり、様々な生徒の問題に適切に対処できるような体制の一層の強化が見込まれる。</p> <p>②学校行事満足度…今年度の取り組みにより、教職員の意識が81.4%と上昇した。生徒（76.1%）、保護者（83.8%）共に例年並みの高い水準で推移している。</p> <p>以上のように、安全で安全な学校生活の中での規範意識と自尊感情の醸成に関して、学校教育自己診断の結果は、教員の取り組みへの意識よりも、生徒の実感が少し低い傾向にある。特に安全で安全な学校づくりの項目は、本校の大きな特色の1つであるため、生徒の心の健康と成長のために、SSWの導入も含め、一層の重点項目として取り組むべき活動である。</p> <p>【地域の信頼を高め、学校教育活動を活性化す学校力の向上】</p> <p>①広報活動に関する項目…教職員（82.9%）、保護者（73.4%）共に肯定的回答が高くなった。今年度は新たに、ホームページの刷新をおこないスマホでも見やすくしたこと、ホームページのブログ機能を活用したこと、広報誌の創刊などをおこなったことなどが、成果につながったと思われる。</p> <p>②学校力向上のための職員研修…経験の少ない教職員へのフォローに関して昨年度比+8.1%で上昇傾向である。それまでは6割程度であったため、木曜会や学力充実プロジェクトなど、近年の取り組みが数字を押し上げている要因となっていると思われる。</p> <p>今後とも広報活動に関しては、必要な情報をいち早く的確に保護者に伝えられるように努める必要がある。また、研修は、経験の少ない教職員のみならず、授業をはじめ、全ての教職員が実践的に業務に活用できるような研修を計画的に実施することが望まれる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どんどん生徒と先生の距離が近づいて、授業が変わってきている。子どものために先生方が工夫されているし、多彩な取り組みは他の学校と比べても圧倒的に充実している。他の学校が真似できるような学校であり続けて欲しい。 <p>【第2回 10月24日】「平成30年度学校経営計画進捗状況について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態に沿った授業を頑張ってもらいたい。 ・授業アンケートの自由記述欄も参考にしてみよう。読んでみたい。 ・教科内でも、先生によって生徒の中でも分かりやすさに差があるのではないかな。 ・こんなにも大きく入試が変わることを意識していなかったが、高校でもその対策を進めていることがわかった。外部にも伝えていきたい。前回の協議会で希望していた、PTAと生徒会との連携も進めている。生徒会からマスコットキャラクターのきぐるみを作りたいとの希望が出たため、PTAにプレゼンをし、作製の承諾を得ることになっている。 ・阿武野高校は人権がキーワードだと思う。先生も生徒の悪口を言わない。そんな環境の中で進路を選んでいく生徒は、共生していく力がついていく。それがすごくいい。 ・遅刻しないように自転車でスピードを出している生徒も見かける。事故のないように気を付けてほしい。 ・広報誌「ABULIFE」について、生徒の表情がいい。中身も大切だが、被写体の表情もアピールになるので大事。 <p>【第3回 1月29日】「平成30年度学校経営計画達成状況について」 「平成31年度学校経営計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学も改革途中だが、阿武野高校と同じように現場の教員の意見を聴いて取り入れていきたいと思っている。自立支援コースがうまく作用し、学校全体に人権意識が広がっている。自立支援コースの在り方を提示しているように感じた。府教委にぜひ発信して欲しい。 ・3年間自立支援コースに所属し、書道部でのパフォーマンスなどでその生徒は大きく成長したが、支援コースでない生徒との関わりの中で疎外感を感じていたようだ。そこでぶつかり合うことで学ぶこともたくさんあり、「障がいはい個性だ」と思うようになったとのことだ。 ・自分は高校時代に障がい者と関わる機会があり、それが現在の職に就くことにつながった。障がいについて考えるきっかけがあれば理解が深まり、将来の職につながることもある。 ・中学校とクラブ同士の交流や課外活動がもっとたくさんあれば、生徒間で阿武野の良いところが伝わっていくのではないかな。 ・地域の中で阿武高生が様々な活躍をしているので、地域も協力していかないといけない。出来ることがあれば、ぜひ協力していきたい。 ・阿武野高校は地域社会に貢献している学校なので、発展して欲しい。中学校でも授業づくりは課題となっている。阿武野高校では「褒めて育てる」とある。良いところを伸ばし、それぞれの得手不得手でもって互いに補い合える地域社会になればと思う。 <p>*平成31年度学校経営計画については、満場一致で承認。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価（12月末段階）
1 確かな学力の育成と授業改善	<p>(1) 生徒の参加・活動量の多い「わかる授業」をめざした授業改善に取り組み、自ら学ぶ生徒を育てる。</p> <p>(2) 学習環境の整備、授業規律の確立を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・アクティブ・ラーニング（AL）、ICTを活用した授業づくりを推進し、生徒の主体的・協働的な授業参加と活動量の増加を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各授業の目標、ポイントを明示するとともに、授業の振り返りを行う。 ・課題・宿題による家庭学習の習慣づけ、確認を行い、授業進行に活用する。 ・パフォーマンス課題に基づく評価を推進する。 <p>イ・教員相互の授業見学の活性化と共に、授業アンケート結果を活用し、授業改善を図る。</p> <p>ウ・国際交流事業（セント高との相互交換留学）や英検受検を通じて英語力と国際感覚を養う。</p> <p>エ・あぶプロ・学力充実推進チームの活動を継続し、教材開発、研究授業、研究協議、ICT機器活用及びAL推進のための校内研修を実施する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学習環境整備、授業準備、授業規律について、各学年団での指導を一貫して行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健部を中心に全教職員で校内美化を推進。 	<p>(1) アイエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度を前年度（81%）より向上させ、84%とする。 ・平均家庭学習時間：昨年度比10分の増加。 ・外部学力調査の成績上昇者：昨年度比10%向上。 ・ICTを使用した授業：3000時間→3500時間。 <p>ウ・国際交流事業の活性化。</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断（生徒）における「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価を前年度（68%）より向上させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定評価を前年度（53%）より向上させる。 	<p>(1) アイエ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心、知識技能に係る授業アンケート満足度は79%に留まっている。（△） ・平均家庭学習時間は昨年度より3分増。（△） ・外部学力調査の成績上昇者は34期生が13%減、35期生が1%減。（△） ・ICTを使用した授業時間は4586時間。（◎） ・国際交流事業は例年通り7月にセントレイク・セントウッド高から生徒4名教員1名を受け入れ、3月に生徒4名教員1名を派遣。今年は特に派遣希望者が8名と例年より多かった。（◎） <p>ICTの活用で授業改善は進んだが、中学時代に既に経験している生徒の評価は厳しく、それに応えるより一層の授業改善が必要。</p> <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クラス清掃をきちんとする」の肯定的評価は66%と微減。（△） ・「私語が少なくしっかり授業を聞く」の肯定的評価は51%と微減。（△）

2 進路意識の高揚とコース制の充実	<p>(1) 進路指導部と学年が協力して、系統的キャリア教育の充実を図り、主体的に進路を選択し実現できる生徒を育てる。</p> <p>(2) 各コースをはじめすべての教育課程において、進路実現につながる特色ある教育活動を展開し、望ましい勤労観・職業観、基礎的・汎用的能力を養う。</p>	<p>(1) ア・3年間で、LP、LHRにおける系統的・継続的なキャリア教育が充実するよう、進路指導部、学年が協力する。 ・進路指導部・教務部・学年団が協力して、補習・講習を実施し、進路実現に導く。 ・1年次は自尊感情の育成とともに、LP「素敵な大人インタビュー」等を通して将来の職業生活についての意識を高める。全員の3者面談を実施し、進路決定や職業を意識したコース選択、科目選択を徹底する。 ・2年次は進路体験学習等のキャリア教育、個人面談により、適切な科目選択、卒業後の進路目標の確定に導く。 ・3年次は進路別対策講座を実施するとともに、担任・進路によるきめ細かな進路相談を行い、進路希望実現100%をめざす。</p> <p>(2) ア・専門コースや選択科目が生徒の進路に結びつくよう、教育内容の充実を図る。 イ・地域諸団体との交流・連携を推進し、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>(1) ア・同「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(82%)より向上させる。 ・2年生の進路目標確定95%以上。 ・卒業時進路決定率を前年度(86%)より向上させる。 ・学校紹介就職内定率100%。 ・進路指導部による進路相談200回以上。 ・難関・中堅私立大学合格者数15名以上。</p> <p>(2) ア・同「専門コースの授業に満足」の肯定的評価を前年度(86%)より向上させる。 イ・同「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(68%)より向上させる。</p>	<p>(1) ア ・「進路や職業について学ぶ機会がある」の肯定的評価は86%と増加。(○) ・2年生の進路目標確定は100%。(◎) ・卒業時進路決定率は93%。(◎) ・学校紹介就職内定率は100%。(○) ・進路相談は現時点で240回。(◎) ・難関中堅私立大学合格者数は7名。(△)</p> <p>(2) ア イ ・「専門コースの授業に満足」の肯定的評価は84%と微減。(△) ・「地域の方から学ぶ機会がある」の肯定的評価は67%と微減。(△)</p> <p>キャリア教育の意識は高まったが、まだそれが進路実現(特に進学)に十分結びついていない。引き続きの取組みが必要。</p>
3 安全で安心な学校生活の中での規範意識と自尊感情の育成	<p>(1) すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の高揚に努める。</p> <p>(2) 生徒の自主的活動を支援し自尊感情を育成すると共に、自らを律し他人を思いやる心を育てる。</p>	<p>(1) ア・全教職員が協力して登校時校門指導を行い、遅刻、頭髪、制服の指導を強化するとともに、挨拶ができる生徒を育てる。 ・生徒一人ひとりが「阿武野高生の代表」という自覚を持ち、責任ある行動、言葉遣いができるよう一貫した生徒指導を行う。 ・カウンセリングマインドを持った生徒指導を推進する。 イ・1年次に地域交流による「障がい理解学習」を行う等、LP、LHRでアサーション・トレーニングやメディアリテラシーの取組を含めた人権学習等を計画的に実施し、安全で安心な学校づくり、人権意識の高揚を図る。 ウ・2年次に社会貢献活動「あぶねっと」を行う等地域交流を推進し、学校教育全般を通じて生徒の規範意識、自尊感情、人権意識を育てる。 エ・防災教育を計画的に行う。 ・自転車運転ルールの順守、マナーの向上について、定期的な注意喚起を行う。</p> <p>(2) ア・学校行事、生徒会活動の活性化を図る。 イ・部活動の活性化を図る。 ウ・各学年、相談室委員会、配慮特別委員会が情報を共有し、SC(スクールカウンセラー)、関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援体制を維持する。</p>	<p>(1) ア・年間延べ遅刻数4500人以下。(H29・5017人) ・同(教職員)「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価を前年度(73%)より向上させる。</p> <p>イウ ・同(生徒)「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価を前年度(83%)より向上させる。 ・同「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価を前年度(74%)より向上させる。 エ・防災教育、交通安全教育の各学期実施。 ・カップ所有率100%。</p> <p>(2) ア・同「学校行事満足度」の肯定的評価を前年度(75%)より向上させる。 イ・部活動加入率51%→53%。 ・生徒会や部活動による地域交流20回以上。 ウ・「個別的教育支援計画」の作成と適切な支援。</p>	<p>(1) アイウエ ・年間延べ遅刻数は3746人。昨年度より大幅減。(◎) ・「カウンセリングマインドのある生徒指導の実施」の肯定的評価は83%と増加。(◎) ・「人権の大切さを学ぶ機会がある」の肯定的評価は82%と微減。(△) ・「学校へ行くのが楽しい」の肯定的評価は73%と微減。(△) ・今年度は諸事情により、避難訓練は机上訓練とし、3学期には防災HRを実施。(○)交通安全教育は随時実施。(○) ・カップ所有率は100%。(○)</p> <p>(2) アイウ ・「学校行事満足度」の肯定的評価は76%と微増。(○) ・部活動加入率は51%と前年度と同じ水準となった。(△) ・生徒会や部活動による地域交流は、富田フェスティバル・中阿武野夏祭り(参加予定で準備済も台風により中止)・同文化祭・ふれあい冬まつりなどに参加。中止の影響もあり、16回の交流に留まった。(△) ・支援計画は計4名作成し適切に支援できた。(○) 遅刻は大幅に減少。△評価もほぼ横ばいと捉える事も出来る。今後も現行の取組みをより一層進めていきたい。</p>
4 地域の信頼感を高め、学校教育活動を活性化させる学校力の向上	<p>(1) 広報活動を推進する体制を強化し、学校教育活動を活性化させる。</p> <p>(2) 組織的、継続的に学校力の向上を図る。</p>	<p>(1) ア・中学校訪問、中高連絡会、学校説明会等を計画的、組織的に実施する。 イ・学校紹介スライド、3年間の学び・みえるプラン、学校だより(ABUNO TIMES)を作成すると共に、校内のデジタルサイネージを推進し、教育活動の効果的な情報発信に努める。 ・文書、保護者メール、HP(ホームページ)等を使って保護者との連絡をより密接に行い、学校との信頼関係を向上させる。</p> <p>(2) ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・府教育センター等の研修を活用し、伝達研修の充実を図る。 ・地域の府立学校とも連携し、多様な課題に対応するための職員研修を計画的に実施する。</p>	<p>(1) ア・学校説明会等の計画的、組織的实施6回以上。 イ・HPをH30年度用に4月中に改訂。 ・同(保護者)「教育情報提供満足度」の肯定的評価を前年度(68%)より向上させる。</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修の実施12回以上。 ・同(教職員)「経験の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価を前年度(71%)より向上させる。</p>	<p>(1) ア イ ・学校説明会は予定通り6回開催し、他に中学校訪問37回、管理職による学校訪問8回、自立支援コース説明会2回、個別見学会7回実施。(○) ・HPは改定済。(○) ・「教育情報提供満足度」の肯定的評価は73%と増加。(◎)</p> <p>(2) ・伝達研修を含む職員研修は13回実施。(○) ・「経験の少ない教職員をフォローする体制」の肯定的評価は80%と増加。(◎)</p> <p>在籍生徒保護者への情報提供は進んだので、今後は中学生の生徒保護者に訴える効果的な情報提供を進めていきたい。</p>